



雲外蒼天



写真: 棚田(国府町)・・・単に農業生産の場としてだけでなく、因幡が誇るべき美しい景観として心の安らぎを与えたり土砂流出や洪水を防止するなど、多面的な機能を有している。現在、棚田の有効活用による集落の活性化を目指した活動が行われている。

2007年度
(社)鳥取青年会議所
広報誌 5月号

因幡

INNOVA [ina:va]
変革

鳥取青年会議所 検索
URL <http://torijc.main.jp>
E-mail torijc@hal.ne.jp

五月 理事長挨拶 安陪 幸伸

ゴールデンウィークの話ですが、鹿兒島県南さつま市は吹上浜で行われました砂の祭典へ視察で出かけて参りました。視察の内容はこのイベントで公開されている砂像を見学し、運営をしている方々からお話を伺うことでした。

この祭典は本年で二十周年を迎えた記念大会でありました。会場を見学しながらスタッフと書かれたシャツを着た人を見つけては話を伺いましたが、驚いたのはそのスタッフの多岐にわたる協力者でした。平日の開催初日でしたが、年齢も中学生や頭も白髪交じりの年配の方が参加していました。学生においてはボランティア授業の一環として朝から参加していましたし、行政の方もおそろいのポロシャツを着て会場を右に左にと動いていました。また、多くの地元企業が賛助や協賛していましたし、ボランティアとしても参加していました。また警察の出張交番ですとか救急に備え消防署員も待機していました。五日間のイベントですが延べボランティアが約千人、平均で一日に二百人がお手伝いに出ているとのことでした。さながらまちぐるみの一大イベントといった感じで、鳥取で例えるのであればしゃんしゃん祭りがこれにあたるでしょう。

鹿兒島県南さつま市は合併により出来た新しい市であります。南さつま市で約四万人、エリアと思われ近隣の町を足して合計八万人弱の住民がいらつしやいます。そんな地域において行われるこの砂の祭典で来場者数が同じ十一万人を集めるそうです。

先にも書きましたが、行政と企業また地域の住民や学生までもが丸となって造りあげてきたイベントであると感じてきました。

今の時代、自立した地域や地方分権、また地域主権とささやかれます。そんな中これからの社会において、行政と住民そして企業が協働やパートナーシップといった形で自分たちのまちを独自性のあるまちとして造っていかねばなりません。それぞれの立場と役割を把握し、お互いが協力し合い暮らしたり安全で豊かな地域を目指す。そんな姿がみられる今回の視察でありました。個人的解釈かもしれませんが、青年会議所として目指すべき明るい豊かなまちの形とは、こんな感じなのだろうか、と思うことができました。

2007年度 日本JCスローガン **「日本の力」発信! 理想国家日本の創造に向けて!**

2007年度 鳥取JCスローガン **目標を見定め「我」実行せん!**

■ まちづくりの仲間紹介 ■

毎月、鳥取県東部で活躍されているまちづくり団体をご紹介します

<財団法人とっとり政策総合研究センター>

地域の自立は、地域の人々が事業を営み、あるいは雇用され、安心して生活ができてはじめて成り立ちます。そのためには、地域自らが産業を維持拡大し、新たに興していくことが必要であり、県内産業の構造改革、新ビジネスの創出が求められています。

また、生活の場としての地域の便利さや魅力をよりよいものとするためには、街のあり方や自治の仕組みに地域の人々の思いが反映されることが必要となります。とっとり総研は、地域のシンクタンクとして、こうした地域の経済や生活について、実態課題を解明し、その対策・立案を含めて、研究に取り組んでいます。

お問合せ先
鳥取市東町2丁目308 鳥取県庁東町分庁舎
TEL 0857-37-1650 FAX 0857-37-1660

まちづくりイベント情報

<「雨滝」滝開き祭>

「日本の滝百選」に選定された高さ40m、幅4mを誇る飛瀑「雨滝」の滝開き祭。傘踊りなどの地域伝統行事や神事などが行われます。
日時 平成19年6月2日
お問合せ先 鳥取市国府町総合支所 産業建設課
TEL 0857-39-0560

<鳥取砂丘 砂の美術館 イタリア ルネサンス>

鳥取砂丘の広大な自然の中に現れた「砂の美術館」。第1期展示が再展示されます。テーマは「イタリア ルネサンス」。「受胎告知」「ピエタ」などキリスト教の聖書をテーマにした作品から、ラファエロの名作「小椅子の聖母」や荘厳な雰囲気「サンピエトロ大聖堂」など、砂像彫刻のスペシャリストが制作した美しく壮大な彫刻の数々が鑑賞できます。

日時 平成19年4月1日～6月30日 9:00～16:00
場所 鳥取砂丘 砂の美術館
料金 開館記念の為、無料
お問合せ先 鳥取市観光コンベンション推進課
TEL 0857-20-3227

○ 入会案内 ○

鳥取青年会議所(JC)に入会にしませんか?

鳥取青年会議所に入会すると・・・
JCはあなたに多くの仲間と出会いのチャンスを提供します! 地元、全国を問わずJCでなければ会えない人々の出会いのチャンスがあります!

- ・JC活動を通じて生涯の友人を得ることができます!
- ・JCでは一般社会で体験できない場面に思いっきりチャレンジし感動体験ができます!
- ・JCでは様々な自己啓発トレーニングを体験することができます!
- ・JCならではの様々なセミナーに参加することができます!
- ・JCの素晴らしいシステムの体験から組織運営を学ぶことができます!
- ・JCでは高い理想を持った運動の体験をすることができます。

社会人としてまだ若い今が、人間的成長の最後のチャンスです。

会員資格

鳥取市、岩美郡、及び八頭郡に住所又は勤務先を有する20歳以上40歳未満の品格ある青年で本会議所の目的に賛同する方。



お問合せ先
鳥取青年会議所事務局 TEL0857-24-1638
もしくは、身近な鳥取青年会議所メンバーへどうぞ。

◆ 今月の表題 ◆

雲外蒼天・・・うんがいそうてん

「雲外に蒼天あり」という。困難を乗り越え、努力して克服すれば、快い青空が望めるという意味。
参照・・・「四字熟語」これだけ辞典

今月のテーマ 「地域間交流」

(社)鳥取青年会議所は創立以来、地域間交流の促進、地域経済の活性化をテーマに様々な活動を行ってきました。近年では、念願であった中国横断自動車道姫路鳥取線が今までの陳情活動もあり、開通が目前となりました。高速道路がまちづくりを加速化すると訴えてきた私たちは、様々な視点でこれからの因幡を考えた活動を展開しています。



2002 「新因幡グリーンツーリズム大作戦」姫路の親子を招き、都市と因幡地域の新しい交流・連携を模索



2004 「青谷スローライフ共創事業」関西の方々には田舎暮らしや田舎の良さを体験していただき、田舎の魅力を発掘・発信



2005 「新因幡景観維持再生大作戦・フォーラム」因幡地域の優れた景観を活かし、都市住民(観光客)に對してこの地域の観光的可能性をモデル事業を通して提言



2006 「夜版」因幡魅力発見ツアー」通過型観光から滞在型観光への取り組みとして新しく因幡の夜の魅力を発掘

今月は、財団法人とつとり政策総合研究センター 調査研究ディレクター 千葉雄二氏と安陪理事長が対談を行いました。千葉氏は経済学・経営学を専門としておられます。

因幡この人に聴く！ このコーナーは毎月因幡地域にお住りの活動が注目されている方々に お話を伺います。

安陪 まずは姫鳥線の状況からお教えいただけますか。
千葉 はい。開通時期としては平成20年台前半ですがはっきりと何日ですとは決まっています。しかしもうすぐですね。
安陪 開通に向けて順調に進んでいるかなと感じますが、具体的に日時は未定のままなんです。千葉 そうですね。道路はあくまでもインフラです。造るまでは比較的問題無くできるものです。整備されたその道をどのように使うかが一番問題であると思います。どのように活用するか。高速道路の議論の中で、出来ても誰も活用しないし地域の役に立たないという批判があらわになってきました。その逆風の中で47都道府県で最後にできる高速道路です。しかも無料です。従来のもとは違い、その分責任や使い方は注目されます。何も活用方法について議論しなれば、皆さんが県外に買い物に行くだけになってしまいます。この道路は県外の方が日本海側に出てくるツールになります。しかしそれで終わるとだめなんです。縦と横のルートが必要なんです。縦に行く、米子に行く、といったことが出来て初めて高速道路の意味がでてくるのです。そこから面で捉えたまちづくりの取り組みをしていかねばなりません。

◆今年の活動

地域間交流委員会
委員長 森田浩二

2007年度、地域間交流委員会(鳥取自動車道(姫路鳥取線)の有効活用を考へ、賑わいのあるまちを創造し交流人口の増す活動を行う、というテーマの中、プロモーションという部分で、委員会活動を行っておりです。プロモーションとは提唱・宣伝という意味があり、開通を2年後にし、今日、道を活用したまちづくりを考へる上で、非常に重要なことと考へます。この鳥取自動車道開通はインフラの整備にすぎず、どのように地域が主体的に取り組みかにより効果が変わります。現在多くの団体が自動車道開通を視野に入れた取り組みをそれぞれが独自性を持ちながら活動されていますが、一元化した組織はありません。因幡全体の課題と捉え、一元化した組織の基、分野別に目的を明確にし、自動車道の活用法を地域に落とし込んでいく、そのような組織形成が必要です。また、開通を前により多くの他地域の方に鳥取自動車道とこの因幡について知って頂く為に情報を発信していくことも大切なことです。

◆過去の取り組み

過去の活動の一部をご紹介します。

- 1990 因幡市構想
- 1991 高速道路アンケート
「まちづくり・みちづくりシンポジウム(共催)」
「ふるさとハイウェイ姫路鳥取線早期実現の陳情」
ウォークラリー
- 1992 春の鳥取バイパス
鳥取豊岡間高規格幹線道路早期実現に関する陳情
高感度因但
計画21の作成
- 1993 日本海ライン
シンポジウム
- 1994 建設省陳情
因幡・但馬連絡協議会設立
- 1995 建設省、他省庁陳情
因幡但馬連絡協議会
「ヘガサスの郷」構想
エリアマップ共同制作
建設省及び
他省庁への陳情
- 1998 高速交通網要望活動
HOTネットワーク、98
1999 釧路J.C・鳥取J.C
姉妹提携30周年事業
Exchange
地域間ネットワーク
の新しいカタチ
2000 Think Globally Act
Globally Forum
北東アジア交流圏の未来
- 1970 観光問題についての懇談会
- 1969 地域開発研修会
- 1967 J.C会議(津山)
- 1966 知事を囲む懇談会
(県内4J.C合同)
- 1965 知事を囲む懇談会
商工会議所会頭との懇談会
- 1971 夏期経済セミナー
経済問題研修会
(全6回)
- 1972 経済問題研修会
(全7回)
- 1972 商工会議所との懇談会
- 1975 経済交流会
- 1976 経済誌3冊発刊
- 1981 鳥取空港を考へる勉強会
- 1983 東部経済圏を考へるシンポジウム
- 1986 高速道路姫路鳥取線を考へる
- 1988 高速道路陳情
- 1990 沿線連絡協議会
IN大原町
「ふるさとハイウェイ姫路鳥取線
早期実現の陳情」



〈千葉雄二氏〉

千葉 小売りと卸売りとつこの点があります。一つは消費者が関西圏に行ってしまう懸念です。おそらく5%位は増えると思います。金額にすれば100億位です。影響は大ですね。もう一点ですが卸売りに対しては、道路が出来ることによつて全国にネットワークが広がります。すると低コストで物が入ってくるようになります。しかし対応の仕方で底上げは可能です。例えば商店街が衰退しているといわれますが、誰が客で何を売るとか考へたとき、中高年の方が中心で、ある程度の高級品で大量消費されるような物品ではありません。カテゴリーが違うのです。若い世代が関西に行くことが想定されますが、では鳥取に若者の店があるかどうか。そういうところも創っていくかなければならないと思います。東京の原宿は30年前は何も無いエリアでした。でも集中的に取り組んで若者が集まるようになった。鳥取も違う視点での取り組みを考へなければなりません。高速道路の開通はいい契機になるのではないのでしょうか。

〈安陪理事長(右)〉



安陪 商売の考へ方としてはお客様視点で第一です。その視点を変えないきつかけですね。地域経済の土台が変わるその中で如何にやっていくのか。逆にチャンスも生まれますよね。どう判断してどう取り組むかが大切ですね。

千葉 高速道路はインフラだけでなくこれが出来ることによつて世の中と密接になってきます。鎖国から開国の流れとイメージが近いでしょうか。大きな変化が出てきますので、しっかりと対応していか考へなければなりません。安陪 私たちが意識していかねければならないことはあります。千葉 現在は様々な取り組みにおいて、個別にやっていくという性格が強いと思います。連携が弱いのです。しかし一体化していかない効果が出てきません。一箇所が勝手にやるとむしろマイナスです。皆の力を結集して、ベクトルを合わせていかねばなりません。それも実行力がなによりも大切です。評論はみんな好きですが、どう実行するのかときかないことはあります。千葉 そうです。協力しなければできないことはあります。何より他県との競争が出てきます。何かあったときには先を見据えて準備して攻めこむべきですね。準備の仕方で違いが出てきます。姫鳥線で考へると、できてからだと間に合わないでしょう。今のうちにリスクとメリットを把握して、活用に取り組みなければなりません。そういう意識改革をして欲しいと思います。

安陪 ありがとうございます。